

2022年6月7日

北海道庁道政記者クラブ 各位

一般社団法人北海道自然保護協会
会長 在田 一則

一般社団法人北海道自然保護協会では、現在進められている「日高山脈襟裳国立公園」の国立公園昇格に関わって別紙の要望書（意見・要望）を山口 壯環境大臣に提出（6日に郵送）いたしましたので、お知らせいたします。

当協会では、2006年1月と2010年10月にそれぞれ当時の小池百合子環境大臣と松本 龍環境大臣に対して日高山脈（日高山脈襟裳国立公園）と夕張山地（富良野芦別道立自然公園）を合わせて一つの国立公園に指定することを要望しております。このたび日高山脈襟裳国立公園が国立公園に昇格されることで私たちの長年の要望の一端が実現し、喜んでおります。

要望書では、日高山脈（“日高山脈襟裳国立公園”）が我が国で突出して最大の原生流域であることを指摘し、国立公園化にあたっては、その自然環境の保全を最重視すること、そのために“日高山脈襟裳国立公園”をIUCN（国際自然保護連合）が定める保護地域の類型区分の Kategorie II（国立公園）に相当するものとして、「公園の指定目的に反する開発や居住を排除する」（私有地がありますので、例外もありますが）など国の責任で厳正な保全と管理を図ること、日高山脈の自然保護・生物多様性保全に効果的な対策が現状以上に講じられ、自然保護重視型の国立公園となることを要望しています。

一方、自然公園法では、国立公園などの自然公園の目的として、優れた自然の風景地の保護や生物の多様性の確保とともに公園の利用の増進も謳われていますので、過度な利用を避けて、賢明な利用を行うことを要望しています。

国立公園の名称については、2021年12月に環境大臣に要望書を提出していますが、現行名称のまま「日高山脈襟裳国立公園」とすることを要望しています。

当協会は、上記のように、地質学的にもまた動植物の生態系においても共通性を持つ日高山脈（日高山脈襟裳国立公園）と夕張山地（富良野芦別道立自然公園）が全体として一つの国立公園となることを要望していました。そのことは、北海道の特徴あるまた我が国の代表的な原生的自然を一体として保護・保全するためには極めて重要ですので、夕張山地（富良野芦別道立自然公園）の新国立公園への編入を今後検討されることを要望しております。

この件についてのご質問・ご照会は下記にお願いいたします。

在田一則（一般社団法人北海道自然保護協会 会長）

電話：011-706-2414（北大総合博物館）、011-644-0093（自宅）

携帯：080-3295-9507

電子メール：arita-kazu@frontier.hokudai.ac.jp